

## 平成 30 年 9 月定例会（第 2 日目）

### 本文 2018-09-26

○7 番（堀 努君） それでは、通告に従いまして、今回は日本平をテーマに話を進めてまいります。

文化庁のデータベースによると、日本平とは有度丘陵の頂上部、標高 307 メートル及びその一帯の総称であって、四囲の視野よく開け、北東には清水港、三保松原、清見潟等の変化に富む近景のかなたに富士山がその麗容をあらわし、南に屏風谷の侵食峡谷を隔て、鬱蒼とした社そうに覆われた久能山を前にして、伊豆半島から御前崎にかけての駿河湾一帯の眺望をおさめ、北西には赤石山系の連峰を遠望できると記されています。

日本平の名称は、日本武尊伝説に由来します。日本平ゴルフクラブの入り口に置かれた草薙神社宮司の名が記された石碑によると、「日本武尊、東夷御討伐の折、駿河国に入らせられるや、賊徒恭順を装い、野火を放って害し奉らんとする。尊は天叢雲剣を抜き、草をなぎ払い、向火をもって打ち懲らしめたまう。ここに草薙の地名起こり、剣名を草薙剣と改めたまう。日本武尊、この地に登り、国見したまう。里人、この平原を日本平と名づけ、御威徳を語り伝うるや久し」と記されています。

そして時代は下り、昭和期以降の日本平は、先人たちの尽力により観光地としての歴史を刻んできました。時系列に要約すると、昭和 2 年、有度青年団を中心とした運動の末、この国を代表する 100 の景勝地として日本百景、平原の部に選定。昭和 10 年、失業対策事業で整備された旧道日本平

線が観光地化に貢献。同年発行の新聞にて「極力宣伝に努めた結果、昨今ではようやく全国的な日本平となり」との記載あり。昭和 25 年、人気投票で日本観光地百選、平原の部において那須高原を押さえて第 1 位に輝く。昭和 32 年、日本平ロープウェイが開通。昭和 34 年、国指定名勝に認定。昭和 39 年、観光振興と地域開発を目的に日本平パークウェイが旧静岡市側で開通。旧清水市側が昭和 47 年に開通。昭和 41 年、100 カ所の日本の観光地の 1 つに認定。昭和 54 年、全国 337 カ所の有名観光地第 1 位に日本平、三保松原と久能山が選定。それを記念して昭和 56 年、記念碑の除幕式が行われ、清水、静岡両市長がテープカットを行う。平成 18 年、恋人の聖地に認定。平成 28 年、日本夜景遺産に認定。当時の記者会見で田辺市長は、日本三大夜景に匹敵するような観光資源に磨き上げたいと述べた。

次に、山頂部の観光入り込み客数の推移を確認すると、昭和 52 年の約 280 万人をピークに減少の一途をたどり、平成 17 年には 138 万人にまで半減しました。その後、久能山東照宮の国宝指定、日本平ホテルのリニューアル、富士山世界文化遺産登録、日本平動物園の再整備が続いた結果、平成 25 年度は一旦 192 万人にまで回復しました。その後、再び減少傾向が続き、平成 28 年度は 124 万人にまで落ち込んでしまいました。

減少の要因を推測しますと、各種法規制のおかげで乱開発が抑制された反面、昭和 30 年代以降は開発が進まず、施設の乱雑な配置や老朽化をそのまま放置した状態が続き、観光客のニーズに応じてこなかったこと。また、眺望の阻害要因である樹木の剪定が行われず、あるいは民有地の適正な管

理がなされなかった結果、景勝地としての本来の実力が発揮できていないことが要因として挙げられます。

それでは、まず初めに、中項目、日本平公園基本計画について伺います。

平成19年度、日本平公園基本計画は、合併後における新静岡市発展のシンボルとして、本市中央部に位置する日本平山頂一帯の公園を再整備することが目的に作成されました。再整備するに当たり、風景美術館を基本計画のキーワードとして添えて、「悠久の時を経て変わらぬ風景と、1年24時間を通して様々な姿を見せてくれる富士山に代表される四周の風景が来園者に感動を与え、その先の富士の心象風景の世界に誘う」との基本理念を目指すべき姿として示しました。

お手元の配布資料を参考にお聞きください。基本計画の対象範囲は、昭和12年に都市計画決定された88.5ヘクタールの日本平公園の中でも、山頂付近一帯の比較的平坦な区域33ヘクタールを整備するものとされています。そして、用途別に6カ所のゾーニングを行い、そのうち5カ所を本市で整備する計画となっております。

主要ゾーンの用途と整備状況について、まず日本平ホテル周辺は文化交流ゾーンと定義され、静岡市コンベンション機能の一部を担い、日本一の景色を楽しみながら文化的交流ができる迎賓的ゾーンとして位置づけられています。平成24年日本平ホテルが約半世紀ぶりに再整備され、平成25年には本市が目標とする「世界に輝く静岡」の実現の第一歩として、国連軍縮会議の誘致成功に寄与しました。また、平成28年には日本・スペインシンポジウム、そして日中韓3カ国環境大臣会合は同ホテルで開催され、本市のMICE戦略における重

要なゾーンとなっております。

次に、日本平お茶会館の北側一帯は平原ゾーンと定義され、市民や観光客などが広々とした空間で展望を満喫できる日本平をイメージさせるゾーンとして位置づけられています。現在は、ゾーン北側の先端部分が整備されており、現地確認をしたところ、遊歩道とベンチが配置されて、その背後で芝生を養生中でした。先端部分からの眺望は、電線に遮られますが、吟望台からでは映らない茶園越しの眺望が広がり、まさに清水の郷土風景というべき眺望を満喫できるゾーンとなっております。

山頂のデジタルタワー付近は、観富の丘ゾーンと定義され、日本平の展望を象徴する吟望台を頂点にした風情と趣のある園地として整備を図るゾーンとして位置づけられています。整備状況については後ほど伺います。

本整備事業の工期は当初の計画で平成22年から3期15カ年計画で、総事業費は計画ベースで100億円とされています。平成19年に基本計画が策定されて以来、既に11年の歳月が経過しており、その間にも日本平を取り巻く社会的情勢は刻々と変化し続けています。平成27年2月定例会において、我が党の望月俊明議員が代表質問を行い、日本平公園整備について現在の進捗状況とおくれの理由を伺った際、副市長の答弁の中で、現行の日本平公園基本計画との整合性を図るために、基本計画の見直しを行うとの発言がありました。それから3年半が経過し、いよいよ日本平山頂展望施設のオープンを控える中、ここで再び事業の進捗状況について確認を行い、今後の整備方針を改めて検証することが必要であるとの考えに至りました。

そこで質問します。日本平公園の整備の

進捗状況と今後の進め方について教えてください。

次に、中項目、日本平山頂展望施設について伺います。

日本平からの眺望は、多くの著名人に愛されました。大正15年、当時の世論形成者であった徳富蘇峰が日本平に登り、「実に天下第一と申し支えあるまいと思う」と山頂からの風景を絶賛して、日本平が全国に知られるきっかけをつくりました。昭和10年、旧清水市は特に眺望の優れた展望台4カ所の選定を蘇峰に委嘱したところ、蘇峰自身の命名により吟望台、望嶽台、超然台、鐘秀台が選ばれ、そこに蘇峰直筆の碑を建設しました。

余談ですが、蘇峰は太平洋戦争終了後、軍国主義の先導者としてA級戦犯容疑をかけられました。その影響のためか、今ではその功績の割に蘇峰の名を耳にすることはなく、清水区民にとっても忘れ去られた存在となっています。

私は、8月末に改修中の吟望台脇に併設された仮設展望台を訪れ、現時点での山頂からの眺望を確認しました。まず、眼下に飛び込むのは放置された樹木群で、眺望の3分の1以上を奪うありさまでしたが、近景の視界中央には3つの穂が横たわる三保半島が海に浮かび、その左手には清水港みなと色彩計画によって色合いが統一された日本三大美港の1つである清水港と、マリニビルなどの建物群が清水港として映ります。そして、袖師から興津地区までの清見潟エリアでは、興津埠頭にJAMSTECの地球深部探査船が停泊中で、中景には庵原山地、浜石岳と大丸山が連なります。さらに、その背後には本来富士山が見えるはずですが、あいにくこの日は雲に覆われて霊峰を拝むことはできませんでした。

さて、日本平山頂展望施設は、日本平公園基本計画における観富の丘ゾーンのシンボル施設として当初は整備期間の後半に当たる第3期に整備される予定でした。しかし、平成27年に県と市の共同で整備する方針で合意して以来、前倒しで建設が進み、本年11月3日にオープンする運びとなりました。静岡市が整備を担当した一周約200メートルの展望回廊は平成17年にグッドデザイン賞を受賞した高さ95メートルの日本平デジタルタワーを八角形で囲み、四周眺望を実現しようとしています。また、本回廊は、県が担当した3階建てのシンボル施設と吟望台を結ぶアクセス通路の役割も担っています。設計は、新国立競技場で有名な隈研吾氏が担当しており、外環にオクシズ材ヒノキを多用して周囲の自然環境に配慮したつくりとなっております。

本施設へのアクセスは、主に山頂付近に整備された県営駐車場からの徒歩での移動が想定されています。実際に歩いてみましたが、駐車場から展望施設まで約150メートルの距離を坂道が続き、途中で勾配が14%の箇所があります。現状のままでは体力に自信のない方や足腰が弱っている高齢者、または賓客のおもてなしを想定した場合、いささか不親切であると感じました。坂道対策における他都市の参考事例として、長崎市は平成15年に全長150メートルの斜向エレベーター、グラバースカイロードを整備して、年間100万人以上の観光客が訪れるグラバー園までのアクセスを容易にしました。日本平公園基本計画では、歩行者動線及び移動等円滑化経路、いわゆるバリアフリーに関する記述があります。それによると、歩行園路は原則5%以内の勾配のバリアフリー対応でルートを設定す

るとされ、勾配等条件的に困難な箇所については、エレベーター等の代替施設を考慮し、建築施設の配慮に当たっての視点とすると明記されています。

以上を踏まえて質問いたします。高齢者等にも優しい山頂展望施設へのアクセス方法について、本市はどのように考えているのか、お答えください。

次に、中項目、クラブライセンス基準に対応した I A I スタジアム日本平の整備方針について伺います。

平成 25 年以來、スタジアムのネーミングライツパートナーシップ契約によって、I A I スタジアム日本平との愛称が付与され、通称アイスタと呼ばれ、市民に親しまれている静岡市清水日本平運動公園球技場は、日本平東の山麓に配置された日本平運動公園の中核施設として運営されています。平成 3 年、サッカーのまち清水を代表する施設として完成し、収容人数は 1 万 3,000 人、ゴール裏とバックスタンド上段部分は芝生席で整備され、同年開催の全国高校総体のメイン会場として使用されました。

平成 2 年の J リーグ発足時に参入した 10 クラブ、通称オリジナル 10 に清水エスパルスが選ばれた最大の理由は、本スタジアムをホームグラウンドに選んだおかげでした。その後、本スタジアムはさまざまな施設改修を行い、利便性向上に努めてきました。まずは当時示された J リーグの参入基準である 1 万 5,000 人以上収容可能なナイター設備付きのスタジアムという条件を満たすために、観客席の大規模改修が行われた結果、平成 7 年に収容客数 2 万人のスタジアムとして生まれ変わりました。また、平成 15 年にグラウンドの改修工事を行った結果、日本一の芝生コンディションとな

り、これまでに 9 度のベストピッチ賞を受賞しました。その他、平成 19 年には大型映像装置アストロビジョンを設置、平成 24 年には外壁補修、授乳室兼救護室及びウォーミングアップ場が整備されました。このようにさまざまな施設改修を行い、清水エスパルスのホームグラウンドにふさわしいスタジアムの維持管理に努めています。

こうした中で、本スタジアムは新たな課題を抱えることとなります。平成 25 年に J リーグクラブライセンス制度という J リーグ参入条件の資格制度が導入されたからです。ライセンスの判定項目は、内容の重要性に応じて A、B、C の等級に区分されており、I A I スタジアム日本平は、ライセンス交付要件である A 等級基準は当然満たしています。しかし、スタジアムに関する B 等級基準において屋根のカバー率と衛生施設は満たしておらず、その結果、制裁対象のスタジアムとされてしまいました。屋根のカバー率とは、観客席の屋根をスタジアムの 3 分の 1 以上覆うことを求めています。現状はバックスタンドとメインスタンドの中央部分のみの配置となっております。また、衛生施設に関しては、1,000 名の観客に対して少なくとも洋式トイレ 5 台、男性用小便器 8 台を備えることを求めています。現状は洋式トイレが 60 台不足している状態です。制裁の内容は、対象スタジアム名の公表と、スタジアム環境の抜本的な改善に向けた計画及び報告書の提出の 2 点であることから、直ちに試合が開催できなくなるわけではありません。

しかし、J リーグ関係者のヒアリング調査によると、今後、A 等級基準にまで引き上げられる可能性があり、このまま手をこまねいては、近い将来、ライセンスが付与されない事態に陥るやもしれません。

また、J1・J2リーグに所属する40クラブ中、屋根不足による制裁対象は12クラブですが、屋根とトイレ両方の基準不足による制裁対象はエスパルスを含めてわずか5クラブしかありません。屋根に関しては、カバー率を満たすためにはスタジアムの立地上、約40億円規模の予算がかかることも試算されており、現時点では判断しがたい問題です。

一方で、トイレ不足に関しては、通称60%ルールをクリアするのであれば、20台のトイレを追加で洋式化すれば足り制裁免除となるため、早急に改修するべきであると考えます。制裁は清水エスパルスにとって不名誉なことであり、サッカーを生かしたまちづくりを掲げる本市にとっても改善しなければならない課題であると考えます。そして、本市策定の静岡市スポーツ推進計画によると、サッカースタジアム整備事業における実施目標の中で、Jリーグクラブライセンスに対応したスタジアム整備を平成30年度までに方針決定することを定めています。

以上を踏まえて質問します。IAIスタジアムの整備方針の状況について教えてください。

最後に、中項目、日本平動物園開園50周年を迎えるに当たって伺います。

日本平動物園に関して、さきの6月定例会において島直也議員よりシティプロモーションに関する総括質問が行われました。今回、私が質問する趣旨は、開園50周年という節目に着目して総論的な、そして持続可能な動物園実現に向けて本市の方針と決意を伺うためのものです。

まず、本論に入る前に、私は、昨年9月の総括質問において、静岡市に新たな感動を生む仕組みとして、日本平山麓、有度山

周辺地区に植物園の設置を提案しました。その際、候補地の1つとして駒越の果樹研究センター跡地を挙げましたが、県有地ということもあり、実現には長い道のりを要します。田辺市長は、平成24年11月定例会において、リニューアルを控えた日本平動物園のキャッチフレーズについて、「人と動物と自然が調和した動物園という新基軸」を掲げました。続けて、田辺市長は、「これは、緑豊かな裏山に囲まれた自然環境をさらに生かしていくというコンセプトであります」とも答弁をされました。

そこで、今回、日本平動物園が開園50周年を迎えるに当たり、また植物園設置の新基軸として、動物園と植物園の併設案を新たに提案いたします。実は、この併設案にはさまざまなメリットがあります。それは、動物園が果たすべき種の保存、情操教育、環境教育、調査研究、レクリエーションという役割は植物園と一致するため親和性が高く、併設することで合理的かつ総合的な運営が期待できるからです。そして、観光面での相乗効果、交通アクセスの利便性の高さ、さらに併設案の候補地は市有地である池田山自然公園内であるため、用地の取得費用が不要となるメリットがあります。あるいは、植物園の段階的整備が可能となるため、整備の初期段階において動物園の一施設として運用することができま

す。一方、デメリットとして、日本平山麓に位置するため土地の起伏が激しいことが挙げられますが、それを逆手にとって地形を活用すれば立体的な展示方法が可能となります。

私は、動物園と植物園を併設することで、動物と植物の循環型システムが構築できると考えます。循環型システムとは、例

例えば植物園建設時に発生した伐採木を動物園内の施設整備に活用することや、植物園で草食動物の餌となる果樹や牧草等を育成し、動物の排せつ物を堆肥として植物育成に利用する仕組みを想像してください。実例として、旭山動物園では、平成22年以来、園内に農園を整備して循環型農園を教育プログラムの一環として実践しております。昨年、総括質問における都市局長の答弁で、「今後は、魅力的で風格のある都市、世界に輝く静岡実現のため、本市にふさわしい植物園のあり方を、みどりの基本計画の改訂にあわせ、調査研究して」いくとのことでしたが、その後の進捗状況が気になります。

そこで質問します。植物園構想の調査研究はどのような取り組みを行っているのでしょうか。

以上、1回目の質問を終わりにします。

54〇市長（田辺信宏君） 私からは、中項目、日本平動物園開園50周年を迎えるにあたってのうち、植物園構想の調査研究は目下どのような取り組みを行っているのかについての御質問にお答えをいたします。

余りに議員の質問が早口でまくし立てるので、聞き取るのに大変苦勞をいたしました。しかしながら、昨年9月の定例会で議員より、清水区駒越地区、県立果樹研究センター跡地を想定した静岡市にふさわしい植物園の設置の提案をいただきました。以来1年がたちました。そして、先ほどは、来年開園50周年を迎える日本平動物園の隣接地に植物園を併設するという新しい提案をいただきました。動物と植物の循環型システムを考えていくという、大変示唆に富む、おもしろいアイデアだろうと思います。

午前中、さくらももこさん、静岡の自然

を大変愛したと申し上げましたが、さくらももこさんもきっと喜んでくれる提案だろうと思います。

元来、静岡市は、市民の皆さんの緑や植物に対する意識が高い土地柄であります。例えば、350以上に上る地域の花壇づくり団体による街角の花壇づくりがとても盛んな花いっぱい運動が展開されています。あるいは、毎年春・秋に開催される園芸市には、毎回1万人以上の来場者があります。さらに、1次産業としてはバラや洋ランなど、全国有数の花卉栽培の生産地であります。

このように緑にあふれる静岡市でありますので、また長年の市民の皆さんへの花と緑の愛着や活動が評価をされ、平成27年には第56回全日本花いっぱい静岡大会を誘致、開催し、大変な成功をおさめたところであります。

これらの豊かな自然環境や市民の緑に対する高い意識を有するまちだからこそ、私は、植物園は静岡市の魅力をさらに向上させていくツールになるものだと考えます。市民の皆さんの緑と触れ合う緑化活動や国内外からのお客様の交流の拠点ともなり、本市の魅力を世界に発信できる場所として、議員提案の日本平動物園の隣接地は有力な候補地の1つであると思うに至りました。

また、動物と植物の循環型システムは、本市が目指すSDGsの開発目標である「陸の豊かさを守ろう」との方向性、同じくするものだと考えます。私どもも、昨年度の議員の御提言をきっかけにして、昨年度は全国の植物園の状況を把握するため、政令指定都市を初めとする主要な公立植物園を対象に調査研究を行ってまいりました。そして、今年度は観光面、並びに学術研究

面への効果などの調査を進めているところではありますが、一方、乗り越えなければならない幾つかの課題も見出しております。

そこで、来年度は静岡市みどりの基本計画の改訂を予定しておりますので、その中に位置づけるために、さらに都市公園審議会にお諮りをして、多角的にこの植物園の構想について議論を深めてまいります。私は、植物園と動物園の相乗効果が見込まれ、国内外からさらに多くの来園者であふれ、本市の魅力を広く海外にもアピールできるような、世界水準の都市にふさわしい植物園の実現を目指していきたいと考えております。

議員の引き続きの御支援を賜りますようお願いを申し上げます。

以下は局長から答弁させます。

55○都市局長（片山幸久君） 私からは、日本平公園に関する2つの御質問にお答えいたします。

まず、日本平公園の整備の状況、進捗状況と進め方についてでございますが、堀議員のお話にありましたように、日本平公園は平成19年度に策定した日本平公園基本計画に基づき、「風景美術館＝日本平」を基本テーマに富士山を初めとする眺望を生かした本市のシンボル公園として、全体33ヘクタールに平原ゾーンや文化交流ゾーン、観富の丘ゾーンなど5つのゾーンを設定し、22年度より公園整備に着手いたしました。平原ゾーンと文化交流ゾーンでは、芝生広場、散策路やアクセス道路、雨水調整池などの整備を行っております。また、平成28年度からは山頂部の観富の丘ゾーンにおいて県市が連携し、山頂展望施設の整備も進めており、進捗率は30年度末で約31%の予定でございます。

この山頂展望施設、先日、愛称が決まり

ました「日本平夢テラス」は、清水港方面の眺望のみならず、新たに駿河区や葵区の市街地も望むことができ、夜景も楽しめる施設で、御案内のとおり平成30年11月3日にオープンの予定となっております。

今後は、来園者の利便性向上のため、アクセス道路や駐車場から山頂施設への移動経路の整備、また、景観向上のために電線類の地中化や芝生広場などの整備を優先して進めてまいります。

次に、高齢者などにも優しい山頂展望施設へのアクセス方法ですが、駐車場から山頂展望施設へのアクセスについては、現在の階段などの施設に加え、急勾配のスロープや段差を解消するための方策を2つの経路で計画しております。まず、来園者の主動線となる県営駐車場からの経路では、エレベーター及びデッキを計画しており、平成30年度より設計に着手し、引き続き文化庁との協議を行い、整備を進めてまいります。

もう一方のロープウェイ駐車場からの経路では、新たに緩やかなスロープや手すりの整備を計画しております。なお、11月の山頂展望施設オープンに当たり、バリアフリー対応として車椅子利用の方などには展望施設横に専用駐車場を先行して整備し、施設内のエレベーターを使い展望回廊や吟望台にも円滑に移動できるようになります。

日本平公園整備では、引き続き高齢者を初め、誰にも優しい施設整備を心がけ、国内外からの誘客と交流の場にふさわしいシンボル公園を目指し、事業を推進してまいります。

56○観光交流文化局長（中島一彦君） クラブライセンス基準に対応したIAIスタジアム日本平の整備方針の状況についてで

すが、議員御指摘のとおり、IAIスタジアム日本平はJリーグがクラブライセンス基準として定めている洋式トイレの数を充足していない状況にあります。現在、J1・J2加盟40クラブのホームスタジアムのうち、洋式トイレの数を充足していないスタジアムは、IAIスタジアム日本平以外に4つあります。Jリーグによれば、本市以外の4つのスタジアムは、全て既にトイレの洋式化に着手しており、近年中には基準を満たす見込みであると聞いております。

このような状況を勘案し、IAIスタジアム日本平においても、まずはクラブライセンス充足に向けたトイレの洋式化を平成31年度に実施したいと考えております。

今後もサッカーのまち静岡としてクラブライセンスを充足させるだけでなく、女性や子供さんを初め、多くの市民の皆さんに楽しくエスパルスを応援していただけるよう、IAIスタジアム日本平のさらなる快適性向上に努めてまいります。

〔7番堀 努君登壇〕

57〇7番（堀 努君）引き続き、早口で進めてまいります。意見・要望は3回目で述べます。

それでは、引き続き、日本平動物園開園50周年を迎えるにあたって伺います。

まずは、これまでの50年間を簡単に振り返ります。

静岡市立日本平動物園は、市制80周年記念事業として昭和44年8月1日に開園した全国で58番目の動物園です。場所は数カ所の候補地の中から自然環境に恵まれた日本平山麓が選ばれ、オープン数時間前まで舗装工事が行われる等、難工事の未完成しました。開園当時は敷地面積6.6ヘクタール、123種、371点の飼育動物でスタ

ートしました。先ほどの市長答弁でも触れられましたが、昭和44年はちびまる子ちゃんの時代設定と重なります。故さくらもこさんは、静岡に帰省された際は、よく日本平動物園に立ち寄ったそうで、特にロッキーのことが大好きだったというエピソードが伝わっています。

50年間の歴史を時系列に要約すると、昭和54年、開園10周年記念として類人猿舎を建設してゴリラを迎え入れる。昭和55年、日中友好大使としてレッサーパンダが来園し、日本平動物園のシンボルとなる。昭和56年、オオアライクイ3頭が来園して、その後3世代の繁殖に成功。平成元年、開園20周年を記念してシロサイが来園。平成11年、開園30周年を記念して夜の動物園見学会がスタート。平成12年、日本平の傾斜を生かした日本一長いローラースライダーが完成。平成14年から15年にかけて、オマハ市との姉妹都市提携35周年を記念して、ハクトウワシ、ピューマ、バイソン、ジャガーが来園。平成15年度から平成24年度の期間、総事業費60億円以上を投入し、動物園全体の再整備事業を実施。平成20年、ロシアのレニングラード動物園からホッキョクグマ、ロッキーが来園。その後、その名を冠した公募地方債を発行して動物園の再整備事業に充てる。平成22年、猛獣館299が完成。平成23年、国内最大級を誇るドーム型の鳥展示施設フライングメガドームが完成。平成24年、レッサーパンダ館、ペンギン館、ビクターセンターが同時オープン。

以上のように、さまざまな園内整備を行った結果、現在は敷地面積13.5ヘクタール、飼育動物は約180種、700点にまで発展しました。また、最近のトピックスとして、本年7月、ふるさと納税を活用してピ

ユーマ2頭が来園しました。

それでは、次に、入園者数の推移を振り返ります。

開園の年は83万人強、昭和50年代のピーク時には77万人の入園者数を誇りました。その後、少子化や民間の娯楽施設増加といった社会的要因の結果、平成10年代は50万人割れの状態が続きました。しかし、平成19年から進めた再整備の結果、グランドオープンの平成25年度は71万人にまで回復しました。その後、平成28年度は58万人、昨年度が56万人と少しずつ減少傾向にあります。他の市内公立施設と比較すると、平成28年度では静岡科学館は26万人、静岡市美術館は17万人となっており、依然として市内屈指の集客力を誇っています。

日本平動物園は、平成29年にトータル来園者数が3,000万人を突破し、多くの市民に親しまれてきました。しかし、全国各地の動物園を取り巻く環境が厳しさを増している状況は、日本平動物園にとっても例外ではありません。これまでの動物園は、新たに動物を迎え入れる場合、主に海外からの輸入に頼ってきました。しかし、現在では、ワシントン条約による厳格な輸入制限や購入価格の急激な高騰により、動物園の人気者たちが次々と姿を消す事態が起っています。日本平動物園においても、ゾウがいなくなってしまう事態が起きようとしています。また、来園者数を維持するためには、継続した設備投資を行わなければならない。厳しい財政状況の中、税金を投入することへの正当な理由と市民への説明義務が課されます。

日本平動物園が厳しい現実を乗り越えて、公立動物園として存続していくためには、これまで積み上げてきた50年間を誇

りとしつつ、新たな50年の歴史を歩んでいくための動物園運営の道しるべをつくる必要があると考えます。その道しるべとして、私は、SDGsを取り入れることで、種の保存という動物園の最重要命題を加速させることが有効だと考えます。種の保存は、絶滅危惧種を輸入することに対する正当な理由となるからです。

もう一つは、日本平動物園が実践している行動展示という手法を今後も継続発展させることと、その裏づけとして環境エンリッチメントも動物園運営の道しるべとすることです。これは、動物の飼育環境を野生の環境に近づける工夫を行うことで、ストレスによる異常行動や病気を減らして、動物本来の正常な行動の多様性を引き出す方法であるとされています。例えば、今後、老朽化したハイエナ舎を再整備することとなった場合、環境エンリッチメントを正当な理由として明示すれば、市民の理解は得られやすいことでしょう。

私は、今後も日本平山麓のすばらしい自然環境のもと、静岡市立日本平動物園がこれから先の50年、100年を市民とともに歩んでいく持続可能な動物園となることを心より願っております。

そこで質問します。日本平動物園開園50周年を迎えるにあたって、50年間の総括と今後の50年の展望についてお聞かせください。

以上で、2回目の質問を終わりにします。

58〇観光交流文化局長（中島一彦君） 日本平動物園の50年間の総括と今後50年の展望のうち、まずは、今後50年の展望についてですが、当園は、本市が推進するSDGsにいち早く注目し、平成28年度からの啓発普及に取り組んできたところであ

ります。その目標の1つ「陸の豊かさを守ろう」は、まさに動物園の使命と考えております。今、皆様のお手元に小さなブルーのブックレットがっております。これはボリューム2を持ってまいりましたけれども、ティーチャーズガイドとなっております。動物園を学校単位で訪れてくれる、特に先生に向けてどういうふうに動物園で学習をしていただくかという手引になっています。4ページ、5ページを開いていただきますと、まさにSDGsをどう動物園に結びつけるかということに、いち早くから取り組んできたという紹介の資料をお手元に配布をさせていただきました。

このように、環境問題や生物多様性の重要性に気づき、考える身近なフィールドとして、平成31年度に迎える開園50周年を契機に、命の大切さを伝える世界トップクラスの動物園を目指してまいります。

その実現には動物園の役割である種の保存、教育・環境教育、調査・研究、レクリエーションの4つの分野に磨きをかけることが重要だと考えております。

1つ目の分野の種の保存において、特に絶滅危惧種のシセンレッサーパンダについては、日本平動物園が全国や海外の動物園と連携して進める繁殖の計画管理者として技術研究を重ねております。その結果、現在では日本が世界で最も多くの飼育頭数を誇るまでに、その実績を伸ばしております。今後も、より一層の繁殖に取り組み、レッサーパンダの聖地静岡市に関する情報を積極的に発信してまいります。

また、公共の動物園としてこだわり続けているのが2つ目の教育・環境教育です。当園のふれあい動物園で行う幼児動物教室は、国内トップレベルの量・質を誇っています。今後も、さらに命を伝える教育の充

実を図ってまいります。

この2つの分野においては着実に成果を上げておりますが、調査・研究、レクリエーションにおいては、潜在能力を秘めた分野であると認識しております。今後は、大学などの高等教育機関との連携強化や高齢者など多様な世代への集客強化を図るなど、世界の動物園に学ぶ中で課題を克服してまいりたいと考えております。

現在、このように考えられるのも、昭和44年の開園以来、市民の皆様とともに歩んできた50年の歴史に裏打ちされているからであります。今まで動物園を支えてきた関係者の技術研さんの積み重ねから来るものであります。そして、動物園に求められる役割の変化に対応するため、平成19年度から行動生態展示を主体とした再整備に取り組み、野生に近い環境で生き生きとした動物の姿をさまざまな角度から間近に観察できる国内有数の動物園となりました。この取り組みは、議員の御質問の中でも紹介いただきました環境エンリッチメントと呼ばれ、飼育動物の暮らしと環境を向上させるものでもあります。

先人から築き上げてきたこのすばらしい遺産を継承し、世界トップクラスを目指す取り組みを通じ、本市の重要な観光拠点施設として魅力の向上及び来園者の増加を図るため、動物園職員が一丸となって取り組んでまいります。

〔7番堀 努君登壇〕

59〇7番（堀 努君） 3回目は意見・要望です。

日本平公園基本計画について、昭和21年の航空写真を確認すると、日本平山頂部周辺の敷地はほとんど農地でした。さえぎるものはほとんどなく、眺望については360度のパノラマビューが楽しめたことで

しょう。多額の予算を投入する整備計画には否定的な意見もありますが、かつて日本平を訪れた観光客が味わった感動を再び取り戻すべく、引き続き風景美術館実現に向けて整備を進めていただくことを要望します。

次に、日本平山頂展望施設について、愛称が「日本平夢テラス」に決定しました。日本平公園における風景美術館という基本テーマを実現する上で重要な施設となりますので、この愛称が市民に定着し、観光客が必ず立ち寄る施設となることを期待します。

クラブライセンス基準に対応した I A I スタジアム日本平の整備方針についてですが、スタジアムに関してかねてより移転建てかえの要望が出ております。現在、最適な候補地は明示されていませんが、今後、清水港まちづくり公民連携協議会で策定されるグランドデザインで示されるかもしれません。

一方で、現スタジアムは、静岡市におけるサッカーの聖地であることは今後も変わりありません。アセットマネジメントの観点からも引き続き維持管理に努めてくださいますよう要望します。

日本平動物園開園 50 周年を迎えるにあたってについては、先ほど動物園の隣接地に植物園を併設する案に関して、田辺市長から御答弁をいただき、背中を押していただいたような気分です。決して絵空事ではないという確信のもと、今後もこのテーマに取り組んでいく所存です。

今回、総括質問で飼育員を初めとする職員の皆様の不断の努力と情熱を感じ取ることができたことは、大きな収穫となりました。動物園が大好きな子供を持つ父親として、深く感謝申し上げます。また、アンケ

ート調査によると、50 代以上の入園者が少ない結果となっております。ぜひ大人も楽しめる動物園となるよう、引き続き創意工夫を凝らしてくださいますようお願いいたします。

以上をもちまして、総括質問を終了いたします。ありがとうございました。